〔大正九年十二月二十二日第三種郵便物認可〕　昭和十年六月七日　磐城新聞　〔金曜日〕　第四千三百四十二號　〔一〕

夕刊
磐城新聞
六月六日發行
（日曜祭日翌日休刊）

まへ梅雨　三首

○まへつゆのやみ間みぐらき葉櫻に霧をむら〳〵吹くあらしかも
○若芽ふく楢の林の木をこむる霧濃きなべに郭公啼けり
○雨霽のはれ間あかるき木原みちたちとまり聽く郭公のこゑ

久滿夫

この友情
中野大次郎遺稿集讀後

白木英尾

『中野大次郎遺稿集』が彼を繞る知友たちの熱心な努力によつて刊行された。稻葉信之氏がその後記で書いてゐるのを見ると、この仕事は全く、厚い友情と友情の結晶にと思つた。故人の書齋で遺稿を整理する時の稻葉氏等の心情には深く思ひやられる。萬一の場合の財政的援助があつたことは、刊行にあたつて大きな拍車となつたといふが、それほどに準備してかゝつた刊行委員諸氏の骨折は用意なものでなかつたらう

中野大次郎氏は、私より中學も三四年先輩であり全く一面識もない人であるが昨年十二月讀賣新聞によつて彼の急逝を知り、愕然としてその才能の夭折を惜しんだのである。もとより思想的には可なり急進的なものを抱いてゐた彼であるが私は、その中野氏が今日のやうな御治世の世の中にあつて、どんな步みを續けるか、どんな懊惱を齎らすかを知りたかつたのである

遺稿集には、昭和二年五月讀賣新聞に一等當選して詩壇への第一步を刻んだ詩『鳥』一篇外同九年九月作で絶筆となつた『六郷土手驛』までの詩篇が大半であつて其の他創作と評論感想が抄錄されてゐる。創作の『組合旗を折る』は昭和七年八月中央公論で既に讀んでゐるが、この一篇こそは、中野氏の思想と感情を最もよく具現されてゐるものだと思ふ

評論では、氏自身の兄である勇雄氏の詩集を批評してゐるのが興味深かつた。そしてその勇雄氏がまた大次郎氏の思ひ出を語つて『僕の希望を、文筆を、詩を、讓つた彼だつた』と云つてゐるのも興味深かつた略譜によると、昨年は、二月に中地方の勞働運動家達を素描した小說『宇治の肚情』を脫稿してゐるし、七月までに新田目さんの兄妹をモデルにした『敎育』や炭坑を背景の『山神祭前後』などを書上げてゐる。これはいづれも郷土文學史上に遺さるべきものであると思ふ

最後にちよつと他所の事を書くやうだが、それは私の古い筐底に、どういふ因緣からか、中野大次郎と署名した詩の原稿が煤けたまゝで偶然見付けたことである。それはノートの洋罫紙へ書いたものである

空虛

空の一點をみつめる心にたかく泳ぐものあり

亂舞

憂鬱なる生活の反響をつよくかへす・工兵隊
あたりの空氣がするどく
銳くさけんでゐる

心失せて朧ろかなる影を
赤き火の炎え立つ中にうちすてゝ知らず

赤き火

おそ秋の月の光に——
踊る　夢魔はしきり踊りつづける

おそらくまだ誰も知らないだらうと思ふが、或はまた何かで發表濟みとなつた詩かも知れない。思ふに水戶高校時代の作であつて、東大時代のものではなからう

私はこの不可解な因緣で藏つておいた二篇の詩を、もつと早く見付けておけばよかつたと思ふ。そして刊行會の人達にも知らせてやりたかつた。然し、尊い友情によつて仕上げられた遺稿集は故人の面目を不朽に傳へて充分である。私は稻葉氏等刊行委員達の勞を思ひやると共に故人の冥福を祈つて一先づ筆を擱く

斷層
郷土文學賞の創定

○X會賞、美友會賞、それは、我ら郷土美術界の一權威であり、史に白鴉會といふ研究團体がある。書道方面にも夫々研究機關があり指導獎勵の方法があると聞いてゐる。スポーツに至つては申すも更なり

○それでは茲に、文藝方面には何があるか。郷土文學を彩どる何物もないではないか。吾々文學の趣味を持つものにとつて、それは淋しい。のみならずこれは一つの欠陷だ

○我ら郷土の文學趣味を持つものにとつても、郷土文學賞といふものがあれば將來偉大な詩人や文學者が簇出しないとも限らぬ。先づ吾々學生を標準にして篤と御考慮あらんことを願つておく。（一中學生）

詩　音韻

天

朽ちざる蒼穹　たゞ感激の魂よ
凡そ集散する　瞬間と伴にいきづける

地

脈々と浪うつて止むことなき創造精神
躍動の生誕

人間

荒芒々・思想・戀愛・死をもつて去る

鳥・樹木・昆虫・皆生きよ
風・月・姫婦・節々に心を配つて氣を許すな

太陽と雨
ひろびろの海
萬化みな一律の生態に在る

高瀨勝男

木曜だより

○小濱牧泉氏『歌謠の日本』會員作品發表會が去月廿六日、小石川傳通會館で開催同氏作『荷揚唄』が小松平五郎氏曲で聲樂家西出次郎氏により獨唱發表された。左はその一節

銅羅の鳴る時荷物を抱いて泣いて別れた戀もある
『よせやいコン畜生、嘘言寢言、聞けばたらまで手がにぶる』

雀の卵

關東軍參謀副長板垣征四郎少將の喜久子夫人（磐城高女卒）はまた短歌雜誌『ポトナム』同人としてわが國女流歌壇に知られてゐるが、その少女時代の舊師草野五郎訓導（高坂校在職）から同訓導畫『內郷村高野作附近』の畫額を贈られ往時を追懷して

秋はもみぢ夏は青葉の故里をしのぶよすがや高野作のゐは

の一首を色紙に書き贈つて舊師の厚情を謝したといふ、近ごろ歌壇の逸事としてお知らせする。

先考廿一回祥辰

珠雲　小野務平

音容彷彿夢々牽
花落花開廿一年
白首無爲多悔恨
雙垂涙滿僞碑前

その日

6月7日
△商標條例發布（明治一七）△漁船元山丸カムチヤツカ沖に遭難（昭和七）△濱松飛行聯隊の火藥庫爆發△佐野鍋山兩名轉向聲明（同八）

○
カンカン帽、パラソルが街に氾濫して、いよ〳〵夏が凉風と共に訪れてきました。

小說　誰が殺したか（37）

今野賢三作
龍造寺膽齋

第二の殺人（七）

稻村ヶ崎の別邸から出てほのぐらい夜を、あたりをはゞかるやうにして、なにものかを眼でさがしながら房枝子は海岸を波打際へ降りて行つた

すると四五間はなれた暗い前方から一つの黒い影がうごいてきた

『房枝子さん』

聲をひそめて呼んだのは咲山であつた

『た待たせしてすみませんでしたわね』

房枝子の聲には、あるよろこびが躍つてゐた

『いや……』

二つの、黒い影が依り添ふた

星のない夜だが、波打際は仄明るく帶のやうに二人の行手につゞいてゐた

二人は言ひあはしたやうに、人氣配のない方へ遠ざかつた

『御用と仰じやるのは、なアに……』

『さうあらたまつてきかれると……』

『だつて、アノ……わたくし……』

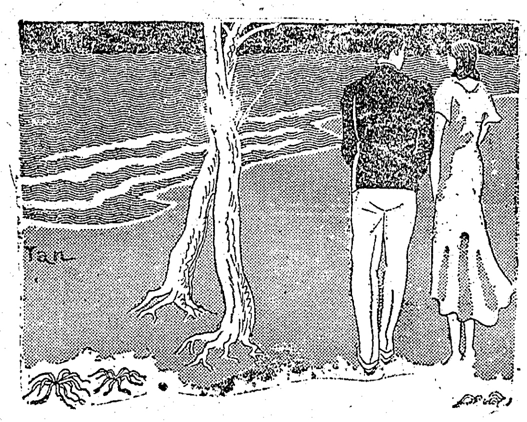
房枝子は、チラと微笑を見せて口をつぐんでから咲山の横顔をのぞいた

『おたがひに、今度のことは一生のうちの大きな打擊ですね……』

『私は、もうその悲しみからどうにかして、救はれやうとしてゐるのだけれども！咲山さんあなたは……私の場合とちがつて……お氣の毒ですわ』

しみ〴〵と悲しみをこめて言つた言葉に、なにかひらめく特別の意味がふくまれてゐた

咲山は、重苦しい沈默におちこんだまゝ足もとを一間ばかりはなれてゐる、薄白い波頭に向つてホッと深い溜息をなげた



『私には、富枝子さんの、おなくなりになつた原因がわかるやうな氣がするわ！わたくし一人だけに……』

自信あるやうに、キッパリと言ひ切ると、咲山は愕然としたやうな顏を上げて

『どんな、どんな事がおわかりになつてゐるんです、どんな？……』

はげしい語調で責める樣にきいた

『……』

房枝子は顏を伏せて、唇でかむやうにして、暫く惱んでゐたが

『あなたは、私と……今まで通りアノ……愛しあつて』

『それは……』

『富枝子さんの、あんなことがあつても？』

『その事で、來たんです』

『私！富枝子さんの事を思ふと、あなたときれいにおわかれするのが、ほんとうかも知れないけれど……』

『それができますか？』

房枝子はだまりこんだ

波の音が、ひくゝ打鳴らしてゐた太鼓の音がふくらむやうになつて、二人のまわりに、急にはげしくひろがつたやうに感じられた

五分……十分……

房枝子は、泣く聲を强ひておさへやうとして、かへつて自分の感情にかけられてフラ〳〵とよろけた

咲山の兩うでが、いたわるやうに抱きとめると、房枝子はこの厚い胸に涙の顏を！うづめないではゐられなくなつた

廣告

下痢病妙藥ヲ御紹介致シマス
天下一品散
平町ネヅミ坂角
特約店　桑原商店
『取次販賣需ニ應ズ』

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

新田町の
おでん　かん酒　榮ちやんで
（十二、三の小年至急募集）

吸入用酸素　純度99％
度量衡　モノサシ　マス　ハカリ
計量器　体温器　寒暖計
◎秤ノ取リ・緒・垂（繕）・糸修・復致シマス
關內藥局
電話四〇番

キリンビール本社直送
樽詰の生ビール
較比量容
生ジョッキ　四合入　金四十五錢
キリン瓶詰　三合五勺入　金五十錢
平會館
電624

移轉改名御披露
從來三丁目北裏通りに於て（マルキョウ）共榮漆器店名儀にて營業致し居り候處各位の絶大なる御引立に依り御陰を以て業務逐日進展仕り店舖の狹隘と不便を感じ居り候處、今回本通り二丁目に移轉致し……屋號も近江屋と改稱仕り誠實勉强親切第一主義を一層徹底せしめ度存じ居候へば舊に變らざる御眷顧相仰ぎ度此段移轉改名の御披露旁申上候
各國産漆器　家具雜貨類　神佛具一式　文具裁縫具　卸小賣
福島縣平町二丁目
近江屋
店主　横幕仁三郎
電話七一一番
吉凶引物、記念表彰品、賞品、景品類は……特に奉仕的大勉强致します。
（本年高卒小店員募集）

流行ノ下駄ト草履ハ！
ドコヨリ安イ
南町　三井ハキモノ店
電話一八一番
（小僧さん入用）

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
（入院隨意病室完備）

產婦人科
外科
藥局
院長　木村寅次郎
醫學博士　內木宗八
藥劑師　玄番彌一
入院隨意　病室完備
平町新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

運動—服装は
型と生地の良い……大塚へ
安價と仕立の良い運動具屋の品を
○野球
○庭球　用ユニホーム　マーク御注文に應ず。
○競技
△アンダーシャツ
△トレーニング　パンツ　シャツ　最新型・豐富
△ノータイシャツ
弊店自慢の……パンツ　十五錢より
瘦り品澤山有ります。
何卒御用命の程を……
田町の……大塚
電話七七番
洋品店の品と御くらべ下さい。

新車御披露
素晴しい乘心地の！
三十五年式流線型新車が參りました。
是非御試乘御利用の程を御願申します。
平二
三井タクシー
電話六八五番

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
電話六一一番
本店　水戶線下館驛前（電話五五番）
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三・八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
久慈濱支店
海上給油及油槽所—大津、平潟、小名濱、江名濱
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、マシン油、モビール油、機械油類、植物油、胡麻、種水、タール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

ヒノ◉マル
凍魚
國は日本。凍魚はヒノマル
鯛。海老。白魚。イカ
刺身魚、煮魚、各種品々一個一尾ニテモ迅速配達……
日本水產一手特約
發賣元
平製氷株式會社
電話二八二・三一六番
平町代理店
ト印魚問屋
電話五二八番

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

新興石城を建設する
平町男子青年學校開始
來月一日蓋明け 昨町會で決定

平町青年學校設立に關しては此程の委員會により大体學則其他を內定したが昨五日の町會に附議した結果、名稱を『平町男子青年學校』として細則を定め來月一日より第一小學校に併設、これが爲專任敎師を一名增置する事に決定した、尚新靑年學校の豫算は二千百三十三圓でこれに縣補助二百五十圓が交付されるので從來の靑訓、並に公民學校の合計豫算千七百七十三圓に對し僅かに百十圓の增加に過ぎぬと

平町男子靑年學校學則

第一章 目的

第一條 本校は靑年學校令により男子靑年に對し其の心身を鍛錬し德性を涵養すると共に職業及實際生活に須要なる知識技能を授け以て國民たるの資質を向上せしむるを目的とす

第二章 名稱及位置

第二條 本校は福島縣石城郡平町男子靑年學校と稱し福島縣石城郡平第一尋常高等小學校に併設す

第三章 科並に敎授及訓練期間

第三條 本校に普通科、本科及研究科を置く
珠算、簿記（速記、タイプライター、英語、製圖其の他主として職業に關する項目）の修得のために專修科を置く

第四條 敎授及訓練期間を定むること左の如し
普通科―二年、本科―五年、研究科―一年、專修科―一年

第四章 敎授及訓練科目並に敎授及訓練時數（略）

第五章 敎授及訓練時刻並に季節

第六條 毎年の敎授及訓練は四月に始り翌年三月に終る

第七條 敎授及訓練の季節並に時刻は凡そ左の如し
毎週二回（水曜、土曜）自午前九時、至午後三時
但し左の各項を休日とす
一、祝祭日 二、夏季休業（自七月二十日、至八月三十一日）三、冬季休業（自十二月二十日、至翌年一月十日）四、學年末休業（自三月二十一日至四月五日）

（以下次號）

規定より遙に多く 從業員分十萬圓
職員二名分を除き 入山弔慰金決定

入山炭礦爆死者四十七名（職員原義雄、遠藤庄司兩氏を除く）の弔慰並に見舞金は今六日決定された、法規によれば一人平均五百圓であるが、一時にかゝる多數の慘死者を出した關係などから最低千五百圓、最高二千三百圓、平均二千圓合計九萬四千圓に上つてゐる、尚前記職員二名の分は近日中決定される筈

休業の出炭減は今月中に挽回する
炎後の入山意氣込む

想ひ設けぬ變災の爲數日間の休業を餘儀なくされた入山炭鑛では災害の後始末がつくと同時に一昨四日より平常の操業に還り順次出炭高を增しつゝあるが臨時休業による出炭減は今月中に於て挽回すべく意氣込み從業員を督勵しつゝあるので結局變災に因る出炭減は大体に於て來さぬだらうと觀察される

新規事業として女性免囚授產所
平自營會で計畫

免囚保護事業で年々異數の好成績を收めてゐる平自營會では此程本年度役員を左の如く決定して同會の內容充實を圖つてゐるが新規事業として女性免囚のために授產所設置その他を內々計劃してゐる

（會長）淸田一郞（常任理事）吉岡重太郞（理事）門傳淸吾 武田淸次郞 山崎與三郞 藤田佑信（幹事）靑沼鉾太郞（書記）大塚部長（評議員）柴田鶴作 飯田近治 小野寛美 川崎文治 多田井笑次郞 花澤久一郞、關內正一 野崎滿藏 井上茂作 萩原義雄 諸橋久太郞 佐藤庄太郞 眞木楨 安齋勝美

軍艦那珂便乘決定
百二十七名中 田中敎諭外二名

既報―來る十四日小名濱で海上簡閱點呼終了後鹽釜に廻航する軍艦那珂の便乘者は昨五日抽籤、百二十七名中左記三名を選んだ

鈴木春雄、田中金三朗、靑天目源一郞

。。。。。木炭指導講習 濱三郡木炭同業組合の今年度新規事業たる木炭[illegible]員養成所は

縣山林課大竹技師指導の下に今月から双葉郡長塚村に開設したが受講者正規員五名の外一般講習者合計二十五名で今秋九月第一回の講習が終了する

區長同代理者決定

昨五日開かれた町會で區長並に同代理者左の如く改選

（區長）（二丁目）山崎孝之助（南町）靑木秀次（久保町）古川部春吉（八幡小路）鍋田三重（北目町）小濱仁助（同代理）（研古町）淺井忠市（南町）佐藤榮次郞（久保町）靑木共平（南白銀町）村山三郞（月見町）久田太平

漸落を見越して初日に大量出荷
四倉繭市開場近づく

四倉繭市場は既報の如く地方養蠶家待望裡に愈々來る十五日蓋明けされるので何れも目下上蔟の準備に忙しいが飯野、神谷方面では沼津の取引が初日に五十圓台を突破し爾來漸落を辿つてゐるに鑑み成るべく初日に出荷する樣意氣込んで居る昨年の初日（十八日）は夜半の零時半から開場して同十一時頃早くも百餘名が詰めかけ午前中の出荷が八百貫位に達した今年は昨年の不凶に祟られて肥料代の負債、其他納税其他の關係から取り急ぎ繭の現金化を目論んでゐるらしいので出荷も相當多く雜沓を來すものと觀られてゐる

酒井敎諭會心の作
『磐梯の初夏』と『靜物』 郷土を描く展。へ出陳

磐女酒井敎諭は來る十一日より一週間東京銀座白木屋のギャラリに於て開催される全國中等學校圖畫科敎員の第二回『郷土を描く展覽會』に日本畫『磐梯の初夏』『淸秋靜物』の二點（共に二十號大）を出品した、なほ同敎諭は昨年の第一回にも『郷土玩具』（日本畫）を出品好評を博した

農工行員異動

平支店行員に今六日書記異動あつた

書記 伊藤榮三郞 命本店勤務
同 丹野信男 命平支店勤務

。。。。小名濱町會 昨五日午前十時から開き左記諸件を附議可決した
十年度納税海面漁業税課税、寄附採納、小學校に並に町醫推薦（同町久保田眞氏）第一區長代理者推薦、公園地內の頌德碑 された

出る！戻る！人々

建立、入山炭鑛災害見舞金贈呈、町有地埋立報告

。。。玉川村會 五日午前九時から開き藤原川改修工事地元負擔金五百圓支出、十年度豫算更正等を附議した

三、害虫驅除として各所に誘蛾燈を設置

。。。。小川江筋臨時會 來る十一日午前十時から平園体事務所に開き事業打合せを行ふ

。。。。火見櫓費補助 工費七百八十五圓（地元負擔金五百圓）で建立される五、六丁目間鐵筋火見櫓の町寄附金二百八十五圓は昨五日の町會で議決され愛谷江筋の減水季を見て直に着工する事になつたと

磐中勝つ

磐中對平第二校職員野球戰第二回は昨五日午後磐中校庭に開き十六對十三で磐中の捷ち

自殺の虞あり
妻子の早世と病苦を悲觀 家出した四十男

京都市左京區高野竹屋町一八會社員今北作駿(四三)は妻子を失くしたのと自分の痔疾を悲觀し去月二十一日午後二時頃治療先の病院から現金二十餘圓を所持し突然行方を晦したが厭世自殺の怖れあり六日大阪市北區善源寺町一丁目九四の親戚深山儀三郞氏より平署に搜索方を願ひ出た

二千圓の拐帶店員 本郡に潜入の形跡
東京から平署へ搜索願

東京市豊島區西巢鴨町二ノ二八五二株式外交員尾場義雄(三五)は去る二月四日より同市日本橋區兜町一丁目株式一般取引所山栗商店事栗生藤之方に雇はれ中去月二十四日午後一時頃栗生の現金二千四十圓を拐帶行方を晦したが郡内に潜り込んだ形跡があるので六日栗生から平署に搜索方を願ひ出た

。。。淫奔な人妻 茨城縣東茨城郡石塚町下町柳田アサ(三)は夫ある身で去る二日七十になる實母と子供二人を殘し情夫のペンキ職中村庸之助と驅け落ちしたが磐崎村白鳥姥の湯に立寄るらしいので今六日夫高三から平署に搜索願

妙齡で長驅廣島へ
看護婦志願の家出娘 居所判明伴れ戾さる

大枚五百圓を所持して看護婦を志願行方を晦した箕輪村大字高野字椚合農微二女吉田ツネ(一九)の行方は其後搜査した結果、廣島に高飛びしてその道に進むべく準備中を一昨四日判明連れ戾された

玉川農事方針決定

玉川村農會では此程總代會を開き左記農事指導方針を決めた
一、篤農有能の士を指導し村內の農事改善 二、優良兎三十八匹を購入

郷土の史的時事解說（二）
白水阿彌陀堂の第二回修理
本堂宇の特別保護建造物並に內陣安置五佛像國寶各指定に就て（四）

勿來生

一八、願成寺、熊野大權現、常盤神も同時代の創祀とすべし

秀衡義弟の岩城則道夫妻は、己が彌陀の納堂を白水の盆地に造立した外、願成寺をも開基して之が別當としたであらう。寺院のある所、必すや諸堂祠が附設するのは必然な關係で、孤り白水の堂ばかりではなかつた。彼の近世の俗本「鎌倉實記」に記傳する『岩城三箱山の麓白水寺』云々（十四節を見よ）は、恰も當寺を指呼して餘りがなからう淸衡が中尊寺其他の附屬堂院を創立したのは、長治二年（一七六六）より初まり、天治三年（一七八六、即ち正月二十六日大治と改元）三月に、大略竣つて、其の月に落成の供養式を擧げられたから、淸衡の死去する（同三年七月）五年前で、何れも彼が晩年末であつた。以上の事情や諸州の寺堂創始より觀ると、阿彌陀堂より願成寺の方が先に建られたやうである。乃ち則道の現生中、傳說の設年（永曆元）前に、旣に出來てゐたと想像してよからう 鄕土の先覺大須賀筠軒は此れに就き次の如く記してをる。即ち

德尼御前は亡夫則道菩提の爲め、平泉の堂を移し白水に阿彌陀堂を建立し六供の寺院を置く、之を願成寺と號す、（雜纂磐城志料）

とあるのは、則道の生前、死後の何れに係けるとも、孰れは大差がなからう

然るに大正元年頃、鄕土志蒐集家吉田經誼は、當寺の古棟札を看て、左の樣に言つた

願成寺は德尼御前置く所

又同寺の棟札には、右大將賴朝公下草創とあり、猶再考。（三應堂遺稿）

併し之は前文と後出の棟札を合せて直解したゞけのことで、他に何等の考及を費してをらぬ

右に云ふ棟札に對して、予は未だ實見せず、又現存するや否か、本年正月、當寺に史料を採訪せる際、時間が足らなかつた爲、殘念ながら之を逸し、今又之を照會してゐる遑がないから大須賀氏の寫してゐるものに據つて、次に引說する

人違ひの暴行に現場を詳細檢證
判檢事一行小名濱へ

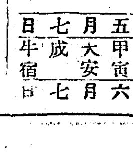
平區裁判所小林判事淸田檢事の一行は、小名濱町元山一四新聞販賣業千葉卯一郞(三七)が四月三十日夕刻醉餘、日頃犬猿の間柄なる同町小名川岡木賃宿觀音湯事小松作太郞方止宿尾形勝雄(三五)方に松丸太を携ね怒鳴り込み戶外にゐた同家長男官司(四三)を尾形と見誤り毆打した事件に關し明七、八日の兩日實地檢證に赴くと

一。公。再。た。暴。れ。る。 平町立町九九ペンキ職鈴木一(三二)は昨年中大工町邊に妾を置き實父芳松(七二)としばしば衝突して刑律に觸れ、福島地方の控訴審で特に執行猶豫の恩典を言渡され謹愼の身でありながら昨五日午後二時頃節句酒にしたゝか醉つた勢ひで今度は內妻古川モト(三五)の眼部に全治三週間の打撲傷を負はせ平署に檢擧された、一は呑むと暴れ廻つて親逹すら持て餘し芳松から町役場へも婚姻屆は受理せぬやう願ひ出ゐる程だが附近では捨て置す目下有力者等が平署に身柄の貰ひ下げに奔走してゐる

。只飮。 好間村大字北好間炭礦坑夫三島文雄(三六)玩具商武藤定藏(三六)の兩名は五日午後六時頃同村料理業鈴木ハル方に登樓無一文で約十圓分を遊興平署に告訴された

。故。買。 錦村中田の昭和人絹會社工場荒しの賊から情を知つて賊物を買入れた勿來町古物商鮮人金拓基(二八)は今六日午前九時平區で懲役六月、罰金五十圓を求刑された

七日 （小名濱測候所調查）
日出 四、二一 月出 前 九、三七
日沒 六、五〇 月沒 後 一〇、五八
滿潮 前 六、三〇 後 九、一〇
干潮 前 一、三五 後 一、五五
芒種 前 〇、三八



舊五月七日 金曜 甲寅 大安 戍 牛宿 新六月七日

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 人言に迷ひ易し空想より事を破る事あり▲二黑 一念を集中して心を他に散さずば吉日たり▲三碧 謙遜ならざれば信用を失ひて秩序乱るべし▲四綠 依賴心を起さず自ら勵む時は發展を見る日▲五黃 惱もあれど又大に助くる者ありて立身す▲六白 質素にし且萬事手控へして堅く守るべし▲七赤 勞多くして功少くとも決して倦むべからず▲八白 心よく且勵みの付く日但仕入物注意の事▲九紫 目前の小利に焦らず永遠の志を立つるに吉

僅かの氷で非常に早くよく冷える……！
丸ほん冷藏器
御家庭にも御營業にも最も理想的な冷藏器……
今年は外壁の絶緣裝置を特に完全に改良を加へましたので、より一層僅かの氷で非常によく冷える樣になりました、內部の構造にも一大改良を加へましたので排水が良くすべて便利になりました爲に貯藏される期間も延長されました、價格は……精選した材料を完備した製法に依る大量製產の爲良品を廉價に御提供する事が出來ます。
丸ほん新家庭型……金十五圓より
丸ほん新型六號……金七十圓まで
▼各種豊富陳列…御一覽を願ひます
株式會社 丸ほん商店
營業所 平町三丁目一六 電話三五九番 振替東京二七二四
製作所 平町新田前 電話一八二番

內科
川井內科診療所
平南町（電二四三）
川井安子

內臟外科（入院隨意）
外科一般
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

外科專門
X光線科
入院隨意（自炊の便あり）
平南町
病室完備
上田醫院
（電話一二九）

內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）
安齋外科醫院

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物
久
釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番 九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は久の生命なり